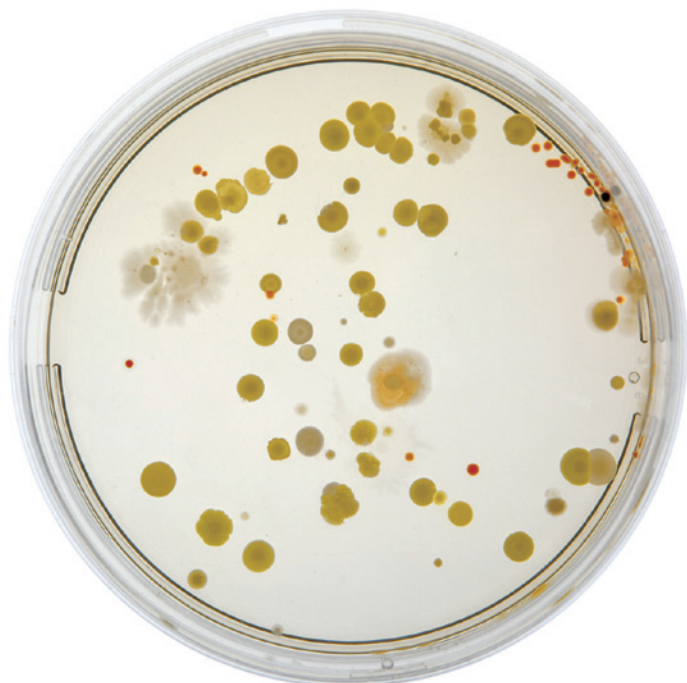


1



SUPERFLEX One Year Project— THE LIQUID STATE / 液相

展示期間：
2016年4月29日(金・祝) →
11月27日(日)

プロジェクト期間：
2016年4月29日(金・祝) →
2017年3月12日(日)

展覧会名	SUPERFLEX One Year Project —THE LIQUID STATE / 液相
会 期	展示期間 2016年4月29日(金・祝) → 11月27日(日) プロジェクト期間 2016年4月29日(金・祝) → 2017年3月12日(日) 開場時間 / 10時~18時(金・土曜日は20時まで) 休 場 日 / 毎週月曜日(ただし、5月2日、7月18日、8月15日、9月19日、10月10日、10月24日は開場)、 7月19日、9月20日、10月11日
会 場	金沢21世紀美術館 展示室13
主 催	金沢21世紀美術館 [公益財団法人金沢芸術創造財団]
助 成	スカンジナビア・ニッポン、ササカワ財団、芸術文化振興基金 
協 力	金沢アスコン、アスワ物産株式会社、日工株式会社
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800

本資料に関するお問い合わせ

金沢21世紀美術館 事業担当: 黒澤、野中、森 広報担当: 落合
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp



プロジェクトについて

SUPERFLEXは、コペンハーゲン(デンマーク)を拠点に活動するヤコブ・フィンガー、ラスムス・ニールセン、ピョルンスティエルネ・クリスチャンセンの3人によるアーティスト・ユニットです。現代社会における既存の制度や枠組みに言及しつつ、コミュニティに対して働きかけ、新しい公共空間の創出を提案しています。今回は、金沢21世紀美術館の建物を微生物を培養する「シャーレ」に見立て、コミュニティとの関係を「培養」「発酵」「変形」の3つのキーワードで読み解く、約1年間にわたるプロジェクトに取り組みます。

プロジェクトのみどころ

展示室は実験空間です。

3つのインスタレーションは展示作品というだけでなく、美術館と来館者との関係性をモデル化する実験装置です。展示室の中に置かれた装置は、そのまま美術館とコミュニティの関係を表し、美術館があることによって、コミュニティで起きている／起きるかもしれないことをモデル化しているのです。この実験装置によって、美術館がコミュニティにおいてどのような機能を果たしているのかという関係性を見ることができます。

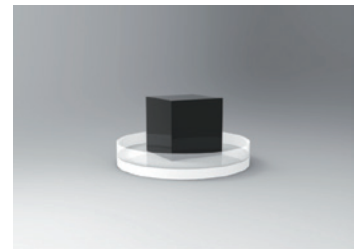
来館者は展示室を訪れるだけで、この実験に参加することができます。

人々が美術館を訪れると、美術館はどのように変化するのでしょうか。あるいは、何も変化しないのでしょうか。美術館を訪れた人々によって、その後のコミュニティはどのように変化する／変化しないのでしょうか。

実験装置の紹介

《すべては固まりが溶けること》

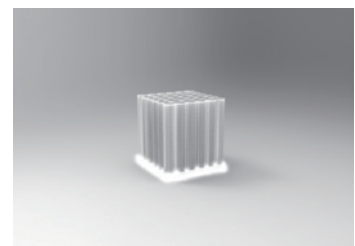
アスファルトの固まりが、ゆっくりと変化する様子を観察する装置です。状態が変化するのに必要な時間は、物や事によって異なりますが、変化や変容の前後によって、何が変わった、或は変わっていると見えるのでしょうか。直径2メートルのシャーレの上に、84.74cm角の黒いアスファルトが置いてあります。長い時間をかけて変容していく様子を観察してみましょう。変化が遅いと変化していないと誤解しますが、変化が見えないようでも、変化していることもあります。「84.74」という数字は2015年版世界保健統計による日本人の平均寿命から得た数字です。



《培養作用》

空気中の微生物は目視ではわかりませんが、捕獲し着床させ、培養することで、はじめてその存在が明らかになります。私たちがとりまく物事も、目に見えないからといって存在していないわけではありません。シャーレに定着した微生物を美術館に援用して考えてみましょう。美術館というシャーレに着床し、はじめて可視化される物事や関係性があるかもしれません。またそれらはどのように変化していくのでしょうか。

1500個のシャーレに寒天床を作り、展示室内の微生物を採取し期間中、培養します。あなたがその場所にいる／いないによって、培養される菌に変化があるとしたら、演繹的に美術館というシャーレにあなたがいる／いないによって美術館にも変化が現れるかもしれません。



《発酵作用》

展示室内で除湿機を稼働させ、採取した水を使ってコンブチャ(Kombucha/紅茶キノコ)の製作に挑戦します。コンブチャはモンゴルが発祥の地といわれる発酵飲料で、紅茶や緑茶にゲル状の酢酸菌と砂糖を加えて作ります。微生物の働きによって物質が変化し、人間に対して良い影響を与える「発酵」というプロセスを観察してみましょう。

あなたが吐く息や持ち込む湿気によってコンブチャが生成されます。誰かが美術館を訪れて展示室を訪ね、呼吸をして二酸化炭素を発生させなければ、コンブチャは出来ない、ということになります。



関連プログラム

アーティスト・トーク

[出演] ヤコブ・フィンガー (SUPERFLEX)

[日時] 2016年4月30日(土) 13:00~15:00

[会場] 金沢21世紀美術館 展示室13

[料金] 入場無料

※英語-日本語 逐次通訳付

SUPERFLEXのヤコブ・フィンガーが来日。SUPERFLEXがこれまでに手がけた作品やプロジェクトを紹介しながら、金沢において約1年間にわたる「THE LIQUID STATE / 液相」プロジェクトをどのように進めているのかについて話します。

また、このアーティスト・トークは本プロジェクトのキックオフイベントを兼ねています。今後、「発酵」をキーワードにしたミニ・プロジェクトやレクチャーを共に進めていくメンバーも募集します。関心がある方はぜひ、ご参加ください。

作家プロフィール

SUPERFLEX

ヤコブ・フィンガー 1968年生まれ

ラスムス・ニールセン 1969年生まれ

ビョルンスティエルネ・クリスチャンセン 1969年生まれ

いずれも、コペンハーゲン(デンマーク)在住。

1993年に結成したアーティスト・ユニット。コペンハーゲンを中心に世界各国でプロジェクトを展開している。コミュニティや社会的制度に言及して、課題や新しい価値の創造について機能的で具体的な提案を行う。グラフィック、映像、建築など、さまざまなメディアを駆使、プロジェクトに多角的な視点を折り込み、コミュニティが課題や関係性を自身で気づくことの出来るプラットフォームの創出を得意とする。作品を「ツール(道具/手段)」と考え、展示会場さえも、見る人々に何かについて考えることを促すための、思考/試行的空間と看做している。

主な個展に「Superflex Biogas in Africa」(1997年ヘルシンキ現代美術館、ヘルシンキ/フィンランド)、「Superflex tools + counter-strike」(2002年Rooseum、マルモ/スウェーデン)、「FREE BEER & counter-game strategies」(2006年Jack Hanley gallery、サンフランシスコ/アメリカ合衆国)、「Flooded McDonald's」(2010年スミソニア/ハッシュホーン美術館、ワシントンD.C./アメリカ合衆国)「Free Sol Lewitt」(2010年Van AbbeMuseum、アイントホーフェン/オランダ)など。代表的な公共空間プロジェクトに、ワークショップによって地域に暮らす人々と共に創出した公園「Superkilen」(コペンハーゲン)がある。



Superflex, Mayotte 2014

広報用画像

画像1・2を広報用にご提供致します。

ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。 Email: press@kanazawa21.jp

＜使用条件＞

※広報用画像の掲載には各画像のキャプション、クレジットを必ずご表示ください。

※トリミングはご遠慮ください。キャプション等の文字が画像にかぶらないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正用原稿を広報室へお送りください。

※アーカイブの為、後日掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。

以上、ご理解・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。